

『現実の中に理念』を問う ～ 段階ごとに辛抱強く、丁寧に仕上げていく ～

2025 年 1 月 5 日 アメリカ ワシントン州 Lakewood 在住の娘夫妻の自宅から Wife と帰国した。1 月 6 日は、恵泉女学園(創立 1929 年)の教職員の新年礼拝に赴いた。筆者は理事長として『挨拶』の機会が与えられた。【Lakewood を散策(添付)しながら 河井道(1877-1953)は、新渡戸稲造(1862-1933)[東京女子大学 初代学長(1918 年)、国際連盟事務次長(1920-1926)]夫妻に連れられて渡米(1898 年)し ブリンマー大学に入学した。帰国後 1929 年 恵泉女学園を設立した。河井道の『私のランタン』(1939 年)が甦って来た】と語った。

また、【河井道は、創立 10 周年を機に、『” My Lantern” (わたしのランタン)』著した。『わたしのランタン』の終わりに『ここまで、わたしは、私のランタンをかかげてきた。時がくると、それは別の手へと引き継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。私たちの魂の「太陽」が、この世界の面から、うれいと闇の跡をひとひらも残さず追いはらうまで、このランタンが、芯を切りととのえられ、燃え続けていくように、わたしはそれのみを願っている』と記述している。】も語った。締めには、下記の新渡戸稲造の言葉を述べた。

- 1) 世界の動向を見極めつつ 歴史を通して今を見ていく
- 2) 『理念を持って現実に向かい、現実の中に理念』を問う人材の育成
- 3) 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む
『具眼の士』の種蒔き
- 4) 世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度
- 5) 軽やかに、そしてものを楽しむ。自らの強みを基盤とする。
- 6) 学には限りないことをよく知っていて、新しいことにも、自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する。
- 7) 段階ごとに辛抱強く、丁寧に仕上げていく。最後に立派に完成する。
- 8) 事に当たっては、考え抜いて日本の持つパワーを充分に発揮して 大きな仕事をする。
- 9) 自分のオリジナルで流行を作れ！
- 10) 昔の命題は、今日の命題であり、将来のそれでもある

